

【第1部】(Q1～Q25)

- Q1. ▶ 答え：ア 「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「王の臣」＝王の家臣。
- Q2. ▶ 答え：ウ 「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「学問の道」＝学問の道。
- Q3. ▶ 答え：イ 「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「君子の徳」＝君子の徳。
- Q4. ▶ 答え：エ 「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「父母の恩」＝父母の恩。
- Q5. ▶ 答え：イ 「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「天下の宝」＝天下の宝。
- Q6. ▶ 答え：ア 「之」は代名詞「これ」(之を…)。書き下し「之を知る」＝これを知る。
- Q7. ▶ 答え：ウ 「之」は代名詞「これ」(之を…)。書き下し「之を取る」＝これを取る。
- Q8. ▶ 答え：ウ 「之」は代名詞「これ」(之を…)。書き下し「之を愛す」＝これを愛する。
- Q9. ▶ 答え：エ 「之」は代名詞「これ」(之を…)。書き下し「之を求む」＝これを求める。
- Q10. ▶ 答え：エ 「之」は代名詞「これ」(之を…)。書き下し「之を養ふ」＝これを養う。
- Q11. ▶ 答え：ア 「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「鳥の飛ぶ」＝鳥が飛ぶ。
- Q12. ▶ 答え：エ 「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「民の帰する」＝民が従う。
- Q13. ▶ 答え：イ 「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「水の流るる」＝水が流れる。
- Q14. ▶ 答え：イ 「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「天の高き」＝天が高いこと。
- Q15. ▶ 答え：ウ 「之」は動詞「ゆく(行く)」。書き下し「斉に之く」＝斉の国へ行く。
- Q16. ▶ 答え：イ 「之」は動詞「ゆく(行く)」。書き下し「楚に之く」＝楚の国へ行く。
- Q17. ▶ 答え：ア 「之」は動詞「ゆく(行く)」。書き下し「牛何くにか之く」＝牛はどこへ行くのか。
- Q18. ▶ 答え：ウ 「也」は断定の「なり」。書き下し「是れ君子なり」＝これは君子だ。
- Q19. ▶ 答え：ア 「也」は断定の「なり」。書き下し「仁は人の心なり」＝仁は人の心だ。
- Q20. ▶ 答え：ア 「也」は断定の「なり」。書き下し「是れ吾が罪なり」＝これは私の罪だ。
- Q21. ▶ 答え：イ 「也」は断定の「なり」。書き下し「兵は凶器なり」＝武器は不吉な道具だ。
- Q22. ▶ 答え：イ 「也」は疑問・反語の「や・か」。書き下し「子何をか為すや」＝あなたは何をするのか。
- Q23. ▶ 答え：ウ 「也」は疑問・反語の「や・か」。書き下し「是れ誰の過ちぞや」＝これは誰の過ちか。
- Q24. ▶ 答え：ウ 「也」は疑問・反語の「や・か」。書き下し「何ぞ遅きや」＝どうして遅いのか。
- Q25. ▶ 答え：イ 「与」は並列の「と」(AとB)。「A与B」は「AとBと」と読み、「与」は下の字から返って読む(返読文字)。書き下し「我と汝と」＝私とあなた。
- Q26. ▶ 答え：ウ 「与」は並列の「と」(AとB)。書き下し「父と子と」＝父と子。
- Q27. ▶ 答え：ア 「与」は並列の「と」(AとB)。書き下し「礼と楽と」＝礼儀と音楽。
- Q28. ▶ 答え：ア 「与」は動詞「与ふ(あたえる)」。書き下し「之に金を与ふ」＝彼に金を与える。
- Q29. ▶ 答え：イ 「与」は動詞「与ふ(あたえる)」。書き下し「民に与ふ」＝民に与える。
- Q30. ▶ 答え：ウ 「与」は動詞「与ふ(あたえる)」。書き下し「天之与ふ」＝天がこれを与える。
- Q31. ▶ 答え：エ 「為」は動詞「なす・つくる・治む」。書き下し「学を為す」＝学問をする。

- Q32. ▶ 答え：ア 「為」は動詞「なす・つくる・治む」。書き下し「之が名を為る」＝その名をつける。
- Q33. ▶ 答え：ア 「為」は動詞「なす・つくる・治む」。書き下し「善く国を為む」＝うまく国を治める。
- Q34. ▶ 答え：ウ 「為」は断定の「たり」。書き下し「人の臣たり」＝人の臣下である。
- Q35. ▶ 答え：ウ 「為」は断定の「たり」。書き下し「復た師たり」＝再び師である。
- Q36. ▶ 答え：エ 「為」は「ために」（目的・利益）。書き下し「君の為に」＝主君のために。
- Q37. ▶ 答え：エ 「為」は「ために」（目的・利益）。書き下し「民の為に」＝民のために。
- Q38. ▶ 答え：イ 「為」は受身「る・らる」（為～所）。「為A所B」は「AのBする所と為る」と読み、「AにBされる」と訳す。書き下し「人の笑ふ所と為る」＝人に笑われる。
- Q39. ▶ 答え：ア 「為」は受身「る・らる」（為～所）。書き下し「敵の破る所と為る」＝敵に破られる。
- Q40. ▶ 答え：ウ 「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「刀を以て断つ」＝刀で断ち切る。
- Q41. ▶ 答え：イ 「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「徳を以て治む」＝徳によって治める。
- Q42. ▶ 答え：ウ 「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「礼を以て事ふ」＝礼儀をもって仕える。
- Q43. ▶ 答え：ア 「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「其の智を以て解く」＝その知恵を使って解決する。
（原因・理由の「以」は「病を以て辞す」の形）
- Q44. ▶ 答え：イ 「以」は原因・理由の「～によって」。書き下し「病を以て辞す」＝病気を理由に辞退する。
- Q45. ▶ 答え：イ 「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「力を以て争ふ」＝力づくで争う。
- Q46. ▶ 答え：ア 「所」は「～するところ（もの・こと）」。書き下し「見る所」＝見るもの・見た内容。
- Q47. ▶ 答え：ウ 「所」は「～するところ（もの・こと）」。書き下し「聞く所」＝聞くもの・聞いた内容。
- Q48. ▶ 答え：ア 「所」は「～するところ（もの・こと）」。書き下し「欲する所」＝望むもの。
- Q49. ▶ 答え：イ 「所」は「～するところ（もの・こと）」。書き下し「学ぶ所」＝学ぶもの。
- Q50. ▶ 答え：イ 「所」は受身「～される」（為～所）。「所」だけを見ると「～する所」だが、「為A所B（AのBする所と為る）」の形全体で受身を表すのでイ。書き下し「人の殺す所と為る」＝人に殺される。
- Q51. ▶ 答え：ウ 「所」は受身「～される」（為～所）。「為A所B」の形で受身を表す。書き下し「世の用ゐる所と為る」＝世に用いられる。
- Q52. ▶ 答え：ア 「所」は「～するところ（もの・こと）」。書き下し「思ふ所」＝思うこと・思う内容。
- Q53. ▶ 答え：ウ 「者」は「～する者・もの」。書き下し「仁者」＝思いやりのある人。
- Q54. ▶ 答え：イ 「者」は「～する者・もの」。書き下し「学ぶ者」＝学ぶ人。
- Q55. ▶ 答え：ア 「者」は「～する者・もの」。書き下し「勇者」＝勇気のある人。
- Q56. ▶ 答え：ウ 「者」は提示の「～は」（主題を示す）。書き下し「兵は凶器」＝武器というものは不吉な道具。
- Q57. ▶ 答え：ア 「者」は提示の「～は」（主題を示す）。書き下し「良薬は口に苦し」＝良い薬は口に苦い。
- Q58. ▶ 答え：イ 「者」は提示の「～は」（主題を示す）。書き下し「項籍は、下相の人なり」＝項籍（項羽）は、下相の出身である。（『史記』項羽本紀の書き出し）「知る者は言はず」のように「者（もの）」と読んで「～する人」を表すときはア。
- Q59. ▶ 答え：ア 傍線部「之」は連体修飾の「の」（A之B＝AのB）。書き下し「井底の蛙」＝井戸の底にいる蛙（広い世界を知らない者のたとえ）。中心になる語は下の「蛙」なのでイは逆。

- Q60. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「漁父の利」＝漁師が手に入れた利益(二者が争うすきに第三者が利益を得ることのたとえ。『戦国策』の話から出た故事成語)。「之を利す」なら「利レ之」、「利に之く」なら「之レ利」の語順になる。
- Q61. ▶ 答え：イ** 傍線部「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「民の父母」＝人民にとっての父母(のように人民をいつくしむ君主)。中心になる語は下の「父母」。
- Q62. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「九牛の一毛」＝たくさんの牛の中の一本の毛(多くの中のごくわずかな部分のたとえ)。
- Q63. ▶ 答え：イ** 傍線部「之」は連体修飾の「の」(A之B=AのB)。書き下し「孔子の弟子」＝孔子の弟子(孔子に学んだ人)。中心になる語は下の「弟子」。
- Q64. ▶ 答え：ア** 傍線部「之」は代名詞「これ」(之を…)。動詞「習」の下にあるので「之を習ふ」と読む。書き下し「学びて時に之を習ふ」＝学んで、折にふれてこれを復習する。(『論語』学而の冒頭。「而」は置き字)
- Q65. ▶ 答え：イ** 傍線部「之」は代名詞「これ」(之を…)。動詞「知」の下「之」は「これを」。書き下し「之を知る者は之を好む者に如かず」＝これを知っている者は、これを好む者には及ばない。(『論語』雍也。「不如」は「～に及ばない」)
- Q66. ▶ 答え：ア** 傍線部「之」は代名詞「これ」(之を…)。動詞「見」の下「之」は「これを」。書き下し「王之を見る」＝王がこれ(引かれていく牛)を見る。(『孟子』梁恵王上。このあと王は「牛何くにか之く」とたずねる)
- Q67. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は代名詞「これ」(之を…)で、「百獣」を指す。書き下し「虎百獣を求めて之を食らふ」＝虎はあらゆる獣を探し求めては、これを食べていた。(『戦国策』楚策の「虎の威を借る狐」の話。「而」は置き字)
- Q68. ▶ 答え：ア** 傍線部「之」は代名詞「これ」(之に…)で、「其の善なる者」を指す。書き下し「其の善なる者を択びて之に従ふ」＝(一緒にいる人の中から)よい人を選んで、その人を見習う。(『論語』述而。「而」は置き字)
- Q69. ▶ 答え：ア** 傍線部「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。主語「水」と述語「就下(下きに就く)」の間にある。書き下し「水の下きに就く」＝水が低い方へ流れていく(こと)。(『孟子』)
- Q70. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「天の我を亡ぼす」＝天が私を滅ぼす(こと)。(『史記』項羽本紀で、追いつめられた項羽が言うことば)
- Q71. ▶ 答え：イ** 傍線部「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。主語「道」と述語「不行(行はれざる)」の間にある。書き下し「道の行はれざるは、已に之を知れり」＝(世の中に)正しい道が行われないことは、もうとっくに分かっている。後半の「之」は代名詞「これ」。(『論語』微子。「矣」は置き字)
- Q72. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は主語・述語の間(訳さない・「が」)。書き下し「仁の不仁に勝つ」＝仁が不仁に勝つ(こと)。「不仁」は「ふじん」と読む一つの語。(『孟子』告子上。このあと「猶ほ水の火に勝つがごとし」と続く)
- Q73. ▶ 答え：ウ** 傍線部「之」は動詞「ゆく(行く)」。送り仮名「ク」と返り点から「平陸に之く」と読む。書き下し「孟子平陸に之く」＝孟子が平陸という町へ行く。(『孟子』公孫丑下)
- Q74. ▶ 答え：イ** 傍線部「之」は動詞「ゆく(行く)」。「南海」から「之」へ、さらに「欲」へと返って読む。書き下し「吾南海に之かんと欲す」＝私は南海へ行きたいと思う。
- Q75. ▶ 答え：イ** 傍線部の「之」は動詞「ゆく(行く)」のはじめの「之」は連体修飾の「の」(曾子之妻＝曾子の妻)で、同じ字でも位置で働きが変わる。書き下し「曾子の妻市に之く」＝曾子の妻が市場へ出かける。(『韓非子』外儲説左上)
- Q76. ▶ 答え：ア** 傍線部「也」は断定の「なり」。文末の「也」で、疑問の語がないので「なり」と読む。書き下し「是れ知るなり」＝これが(本当に)知るということだ。(『論語』為政。「之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す」に続く結び)

Q77. ▶ 答え：ア 傍線部「也」は断定の「なり」。書き下し「舜も人なり、我も亦た人なり」＝（聖人の）舜も人間であり、私もまた人間である。（『孟子』離婁下）

Q78. ▶ 答え：イ 傍線部「也」は断定の「なり」（「猛なり」の「なり」）。疑問の語がないので「なり」と読む。書き下し「苛政は虎よりも猛なり」＝むごい政治は虎よりも恐ろしい。（『礼記』檀弓下。「於」は比較を表す置き字）

Q79. ▶ 答え：イ 傍線部「也」は断定の「なり」。文末の「也」で疑問の語がないので「なり」と読む。書き下し「戦ひの罪に非ざるなり」＝（負けたのは）戦い方がまずかったせいではないのだ。（『史記』項羽本紀。「此れ天の我を亡ぼすにして」に続く項羽のことば）

Q80. ▶ 答え：ア 傍線部「也」は疑問の「や」。疑問の語「何為（なんすれぞ）」があるので、文末の「也」は「や」と読む。書き下し「何為れぞ去らざるや」＝どうして（この土地を）去らないのか。（『礼記』檀弓下。この問いの答えから「苛政は虎よりも猛なり」が導かれる）

Q81. ▶ 答え：ウ 傍線部「也」は疑問の「や」。疑問の語「何」があるので「や」と読む。書き下し「何の謂ひぞや」＝どういう意味か。（『論語』で、孔子のことばの意味をたずねるときの言い方）

Q82. ▶ 答え：ウ 傍線部「也」は疑問の「や」。疑問の語「何」があるので「何ぞや」と読む。書き下し「其の故は何ぞや」＝その理由は何か。

Q83. ▶ 答え：ア 傍線部「与」は並列の「と」（AとB）。「A与B」は「AとBと」と読み、「与」は下の字から返って読む。書き下し「富と貴きとは、是れ人の欲する所なり」＝財産と高い身分とは、人が欲しがらるものである。（『論語』里仁）

Q84. ▶ 答え：イ 傍線部「与」は並列の「と」（AとB）。「楯与矛」は「楯と矛と」と読む。書き下し「楯と矛とを鬻ぐ」＝盾と矛を売る。（『韓非子』難一の「矛盾」の話。「楚人に楯と矛とを鬻ぐ者有り」の一部）

Q85. ▶ 答え：イ 傍線部「与」は並列の「と」（AとB）。書き下し「兄と弟と皆賢なり」＝兄と弟とは、どちらも賢い。「孰（いづ）れか」などの疑問の語がないので、比較・選択ではない。

Q86. ▶ 答え：ウ 傍線部「与」は動詞「与ふ（あたえる）」。

送り仮名「フ」と一二点に注意。書き下し「則ち斗卮酒を与ふ」＝そこで一斗入りの大杯の酒を与えた。（『史記』項羽本紀「鴻門の会」で、項王の言いつけにより、そばの者が樊噲に酒を与える場面）

Q87. ▶ 答え：ア 傍線部「与」は動詞「与ふ（あたえる）」。

書き下し「堯天下を以て舜に与ふ」＝堯は天下を舜に与えた（譲った）。（『孟子』万章上で、弟子の万章が孟子にたずねたことばの一部）

Q88. ▶ 答え：イ 傍線部「与」は動詞「与ふ（あたえる）」。

一二点で「人に規矩を」を先に読み、最後に「与ふ」へ返る。書き下し「能く人に規矩を与ふ」＝人にコンパスや定規を与えることはできる。（『孟子』尽心下。このあと「人をして巧みならしむること能はず（人を上手にさせることはできない）」と続く）

Q89. ▶ 答え：ウ 傍線部「為」は動詞「なす・つくる・治む」。ここは「（政治を）行う」の意味。書き下し「政を為すに徳を以てす」＝政治を行うには、（刑罰ではなく）徳によって行う。（『論語』為政）

Q90. ▶ 答え：ア 傍線部「為」は動詞「なす・つくる・治む」。ここは「つくる」の意味。書き下し「吾能く之が足を為る」＝私はそれ（蛇の絵）に足をかき加えることができる。（『戦国策』齊策の「蛇足」の話）

Q91. ▶ 答え：ウ 傍線部「為」は動詞「なす・つくる・治む」。ここは「する」の意味。書き下し「是れ為さざるなり、能はざるに非ざるなり」＝これは（やろうとしないから）しないのであって、できないのではない。（『孟子』梁恵王上）

Q92. ▶ 答え：ア 傍線部「為」は断定の「たり」。「君たる（君主である）こと」と読む。書き下し「君たること難く、臣たること易からず」＝君主であることは難しく、臣下であることも容易ではない。（『論語』子路）

Q93. ▶ 答え：ア 傍線部「為」は断定の「たり」。「人の子たる者」＝人の子である者。書き下し「人の子たる者は、仁義を懐きて以て其の父に事ふ」＝人の子である者は、仁義を心にいだいてその父に仕える。（『孟子』告子下）

Q94. ▶ 答え：イ 傍線部「為」は「ために」（目的・利益）。書き下し「人の為に謀りて忠ならざるか」＝人のために考えてやって、まごころを尽くさなかったのではないか。（『論語』学而。曾子が毎日反省した三つのことの一つ。「而」は置き字）

Q95. ▶ 答え：イ 傍線部「為」は「ために」（目的・利益）。書き下し「父は子の為に隠し、子は父の為に隠す」＝父は子のために（その罪を）隠し、子は父のために隠す。（『論語』子路）

Q96. ▶ 答え：ウ 傍線部「為」は受身「る・らる」（為～所）。「為A所B」は「AのBする所と為る」と読み、「AにBされる」と訳す。書き下し「虎の食らふ所と為る」＝虎に食われる。

Q97. ▶ 答え：イ 傍線部「為」は受身「る・らる」（為～所）。書き下し「先んずれば即ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る」＝先手をとれば人を支配し、遅れをとれば人に支配される。（『史記』項羽本紀）

Q98. ▶ 答え：ウ 傍線部「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「羊を以て之に易へよ」＝羊でこれ（牛）の代わりにせよ。（『孟子』梁恵王上。いけにえにされる牛をかわいそうに思った王のことば）

Q99. ▶ 答え：ア 傍線部「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「子の矛を以て、子の楯を陥さば何如」＝あなたの矛で、あなたの盾を突き通したらどうなるか。（『韓非子』難一の「矛盾」の話）

Q100. ▶ 答え：ウ 傍線部「以」は手段・方法の「もって」。書き下し「徳を以て怨みに報ゆ」＝恩徳によって、うらみに報いる。（『論語』憲問で、ある人が孔子にたずねたことば）